

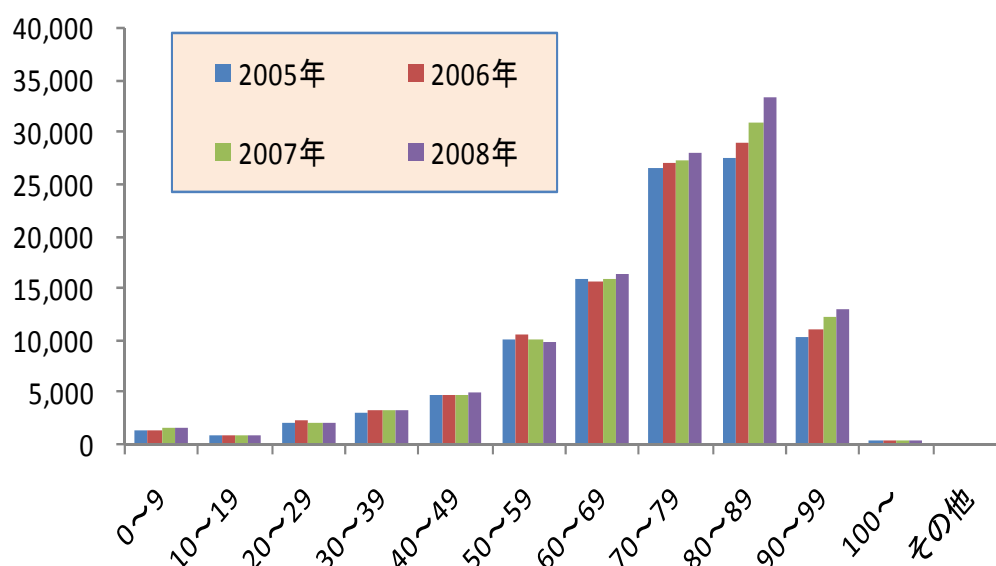
救急統計活用検討会報告書（ポイント）

1 救急蘇生統計の詳細分析について

（１）高齢化の進展を踏まえた生存率等の調整について

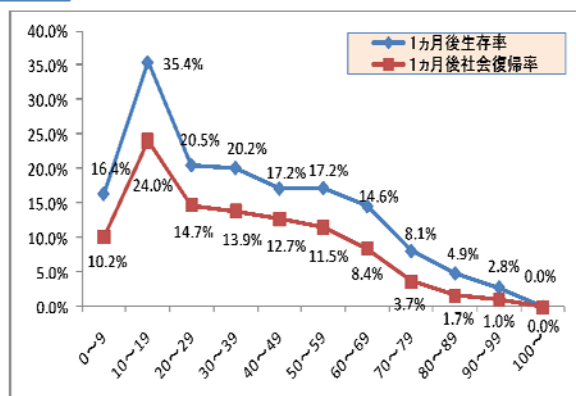
心肺機能停止傷病者の半数以上は70歳代以上であり、また、1か月後の生存率及び社会復帰率は高齢になると低下する。高齢化の影響を除き1か月後の生存率や社会復帰率を経年的に比較するため、心原性かつ一般市民により目撃のあった症例の1か月後生存率及び社会復帰率について、調査を開始した2005年の心肺機能停止傷病者数を基準として性・年齢調整を実施した。

心肺機能停止傷病者の年齢区分別発生件数

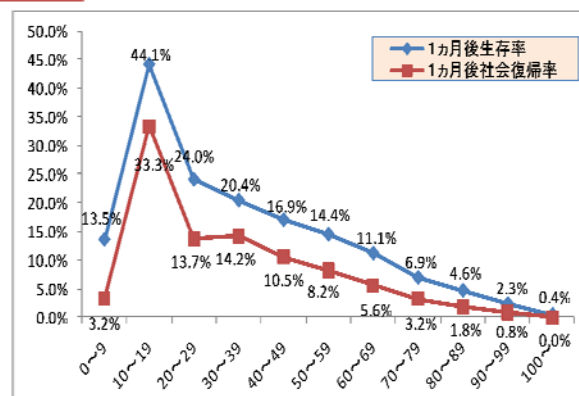


心原性かつ一般市民による目撃のあった症例の
1か月後生存率及び社会復帰率（性別及び年齢区分別）

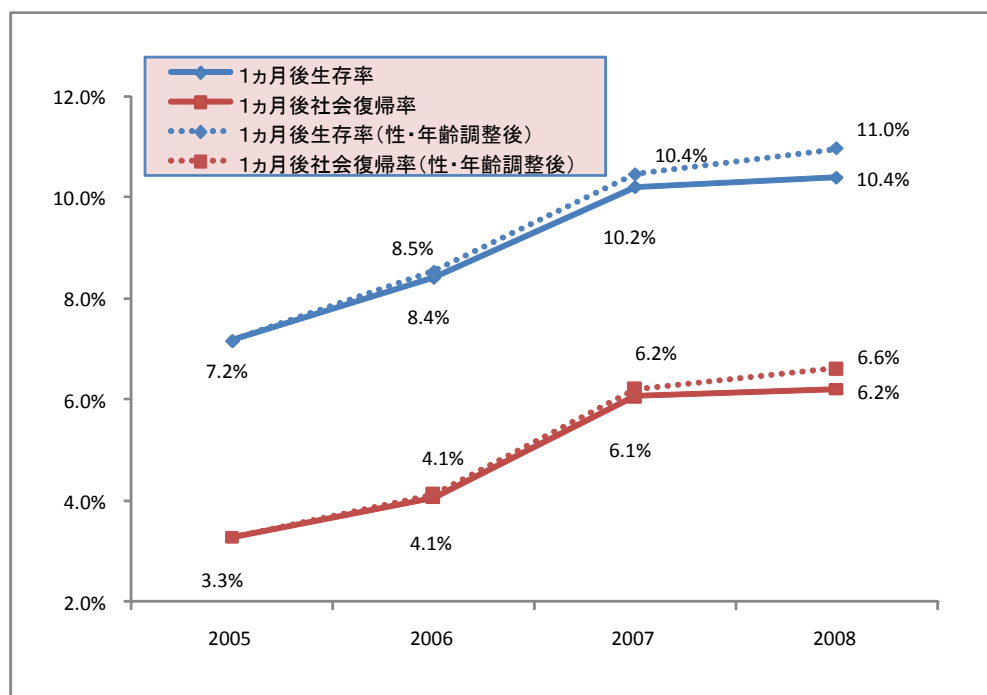
男性



女性



心原性かつ一般市民による目撃のあった症例の 1ヵ月後生存率及び社会復帰率（性・年齢調整後）



基 準：2005年心肺機能停止傷病者（性別・年齢階級別）

（2）一般市民による心肺蘇生の効果について

一般市民による心肺蘇生の効果について、何もしないより胸骨圧迫を実施した方が、約1.8倍の社会復帰率の向上が認められる一方、特に低年齢層では、胸骨圧迫だけでなく人工呼吸もあわせて行うことが有効であることが示唆された。

一般市民による心肺蘇生の内訳別の1ヵ月後生存率・社会復帰率

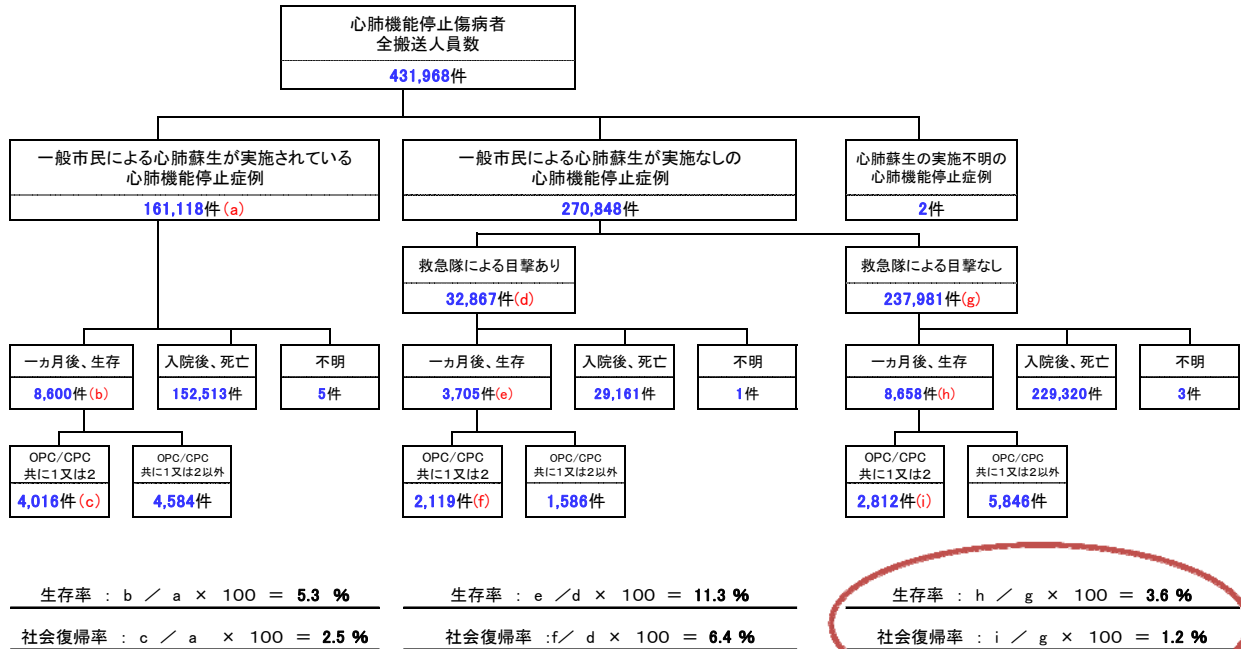
		4ヶ年集計											
		一般市民により心肺蘇生が実施されている症例											
		総件数		うち、人工呼吸・胸骨圧迫が実施されている症例				うち、胸骨圧迫のみ実施されている症例					
				1ヶ月後生存者数	1ヶ月後生存率	社会復帰者数	社会復帰率	1ヶ月後生存者数	1ヶ月後生存率	社会復帰者数	社会復帰率		
年齢区分	0～9	5,881	2,985	1,707	255	14.9%	121	7.1%	1,037	103	9.9%	36	3.5%
	10～19	3,488	1,390	707	154	21.8%	100	14.1%	627	69	11.0%	40	6.4%
	20～29	8,636	2,775	1,158	111	9.6%	65	5.6%	1,521	107	7.0%	60	3.9%
	30～39	13,084	4,186	1,638	197	12.0%	115	7.0%	2,395	173	7.2%	113	4.7%
	40～49	19,158	6,315	2,496	298	11.9%	187	7.5%	3,615	251	6.9%	152	4.2%
	50～59	40,366	13,400	5,128	528	10.3%	290	5.7%	7,833	626	8.0%	389	5.0%
	60～69	63,678	21,023	7,521	692	9.2%	401	5.3%	12,882	871	6.8%	456	3.5%
	70～79	108,714	38,528	13,889	735	5.3%	288	2.1%	23,660	993	4.2%	410	1.7%
	80～89	120,731	49,042	18,670	733	3.9%	220	1.2%	29,142	885	3.0%	287	1.0%
	90～99	46,540	20,975	8,932	252	2.8%	66	0.7%	11,546	246	2.1%	72	0.6%
	100～	1,688	780	368	6	1.6%	2	0.5%	393	6	1.5%	1	0.3%
	その他	4	3	0	0	-	0	-	3	0	-	0	-

※ 年齢が明らかなものについてのみ集計

一般市民による心肺蘇生(1)

4か年合計

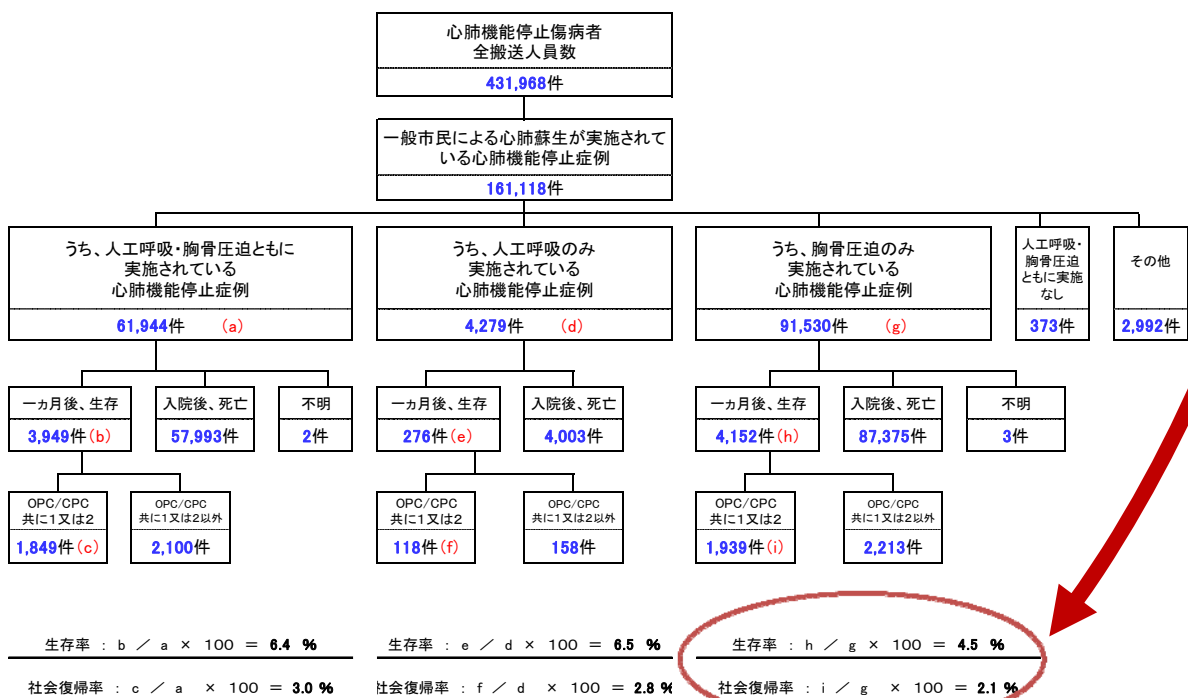
一般市民による心肺蘇生が実施されている心肺機能停止症例の
1ヶ月後生存率及び1ヶ月後社会復帰率（4ヶ年合計）



一般市民による心肺蘇生(2)

4か年合計

一般市民による心肺蘇生が実施されている心肺機能停止症例の
1ヶ月後生存率及び1ヶ月後社会復帰率（4ヶ年合計）



2010年に国際蘇生連絡委員会（ILCOR）において、救急蘇生ガイドラインが改訂される予定であるが、我が国へのガイドラインの適応にあたっては、こうした救急蘇生統計（ウツインデータ）の分析結果に基づき十分検証される必要がある。

2 救急搬送サーベイランスについて

総務省消防庁では、平成21年4月に新型インフルエンザが発生したことを受け、38度以上の発熱・せき等の症状があり、新型インフルエンザ感染が簡易検査等で疑われた事例について、「新型インフルエンザ感染疑い患者の救急搬送状況」として調査している。

この調査は、迅速性・悉皆性において新型インフルエンザの流行を観測するサーベイランス調査として価値が高く、一層の充実を図る必要がある。

